

令和2年4月20日



## 祝120周年 新潟青陵高等学校創立記念日によせて

令和2（2020）年4月23日は、本校の創立120周年記念日です。皆さんと共に、県下に誇る伝統校としての本校の歩みについて振り返ってみたいと思います。

### ●下田歌子と開学（明治期）

明治32（1899）年、新潟師範学校の講堂で、教育家 しもだうたこ 下田歌子先生（現 実践女子大学・本校の創設者）が女子教育の必要性を説きました。下田先生の考えに賛同し、明治33（1900）年4月23日に新潟市東中通に教師3名、生徒19名の裁縫講習所が開設されました。この講習所が本校の前身です。下田先生が開校に寄せたのが次の歌です。



『いち早く 根ざしをわけし 姫小松

ここより千代の 蔭はなすらむ』

7月には私立新潟女子工芸学校と改称し、校舎を新潟市西堀通に移転しました。修業年限は3年で、授業は午前中に裁縫、午後に編物や作文、習字、算術などを学びました。

### ●大正～昭和期（戦前まで）

今年で120年を迎える本校の歴史の中でも大きな危機の一つが、大正10（1921）年から翌年にかけての経営難による市営移管問題（本校を市営学校にすること）でした。私学の灯を消すまいと、同窓生・職員・生徒の間で反対運動が起こりました。生徒たちは仕立物を請け負って学校経営費に充て、同窓生たちも街頭に立って造花を売り、その利益を母校に寄付するなど懸命に協力し、困難を乗り越えました。

昭和18（1943）年頃、戦争色が強まり勤労働員が強化されると、本校も昭和19（1944）年4月に商業科を有する新潟高等実践女学校となりました。同年、本校は「学校工場」に指定され、兵士用被服のミシン掛けやボタン付けなどを行いました。戦局が激しくなるにつれて授業は週一日となり、空襲の危機にさらされるとグラウンドに防空壕を掘って貴重なミシンを守りました。

### ●ひな伝統ある雛人形

本校には第4代校長鳥居ミサヲ氏が大正9（1920）年に寄贈した雛人形が保存されています。現在でも毎年家庭クラブ委員会が雛人形を飾り、雛祭りの行事を行っています。記録が残されておらずわからない面も多いのですが、大正・昭和・平成・令和と約90年もの長期間受け継がれてきた本校の貴重な行事および品物となっています。



### ●昭和期（戦後）

昭和23（1948）年4月、新潟女子工芸高等学校と校名を変え、被服科中心の新制高等学校となりました。また西堀校舎の老朽化が進んだため、昭和32（1957）年、現在の水道町に移転しました。なお、西堀通の柳並木が生える跡地には旧校歌の一節「みゆきが岡のをみなへし」を刻んだ記念碑が同窓生によって建てられています。

その後、普通科、商業科の新設、昭和40（1965）年4月、短期大学が開学したことにより、新潟青陵高等学校と改称しました。砂丘に広がる青々とした松林、松の緑に囲まれた場所（青陵の丘）に学び舎があることが校名の由来となりました。



西堀通にある石碑

昭和61（1986）年、時代の流れから公立高校の共学化が進み、活性化を求めて本校でも普通科で男女共学の実施となりました。それにあわせて制服や校歌の改定、さらに木造校舎、体育館の改築をすませました。

制服の変遷



昭和40年～昭和60年



昭和61年～平成14年



平成15年～平成20年



平成21年～現在

校歌の作詞者である浮橋氏は、作詞するにあたって以下の思いを綴られています。

#### 校歌のこころ

遠い歴史を超えて、大河信濃川は流れて尽きません。大古からの流れ、しかもその水は常に新しい。このように青陵高等学校創学以来の伝統は、この学園に学ぶものたちに、誇りと自覚と、伝統を新しい時代に生かす使命を、語りかけます。学校の教育方針である、自主性、創造性を具現すべく、生徒たちは力あわせ、心あわせて、堂々と前進するにちがいありません。

こんなにも大きく美しい佐渡を見渡せる学校は、他にないでしょう。佐渡は堂々として、しかも詩情を呼びかける姿です。そこから海を越えて寄せてくる波は、自然の底力をこめて、力強く盛り上がり、絶えざる夢を語りかけ、若者たちの体と知識と理想を鍛えるエネルギーになります。この学校の生徒が、実に力強く生きいきしているのは、希望への道を開拓しているからにちがいありません。

空も海も、砂山も松も、本当に美しい環境です。純白の雪も、美しい輝きを放ちます。松美しき青陵は、誠実で、友愛の心に満ち、生命力にあふれた若者たちが育って行く、まさに“青春の陵”と言えます。

(昭和62年10月3日「校歌発表会」パンフレットより)

#### ●活躍する運動部

本校はスポーツの名門校として全国的に知られていますが、なかでも女子バドミントン部は、昭和38年、昭和42年、昭和49年、昭和60年に全国高校総合体育大会（インターハイ）で団体優勝をかざるなど目覚ましい活躍をみせ、オリンピック選手も輩出するなど、輝かしい歴史を誇っています。今までバドミントンをはじめ卓球、体操、陸上、水泳、バレーボールなどの各種目に全国レベルの選手を育てあげ、その成果として、新潟県高校女子スポーツ年間最優秀賞を20年も連続して受賞しました。平成11（1999）年には同賞の通算30回目の受賞を果たし、その伝統は現在にも受け継がれています。



#### ●創立100周年から120周年へ

平成12（2000）年には、創立100周年記念式典が盛大に举行され、新潟青陵大学が開学しました。時代の流れの中で、平成15（2003）年には商業科が閉科し、平成24（2012）年には本校創立以来の伝統を誇る生活服飾科が惜しまれながらも閉科となりました。

普通科のみの学校として、私学としての特色を出していくために、時代のニーズに合わせた新しいコースの設置が考案されました。平成22（2010）年、本校創立110周年を迎える年に高大一貫コースが、平成24（2012）年には国際チャレンジコースがスタートし（令和元年度まで）、現在は普通コース、特進コース、高大一貫コースの3つの魅力あるコースを持つ高校となっています。

近年は、平成21（2009）年にスクールバスの運行、『SEIRYO NEWS』の発行、平成22（2010）年に土曜授業・朝テストなどの学力向上対策、チャレンジウォーク・スキー授業などの新たな学校行事の実施、平成23（2011）年にキャリアサポートセンター開設、平成24（2012）年にスタディセンターの開設など、時代のニーズに応じた試みを取り入れています。さらに今年度から本格的にSDGsを意識した探究学習も始まり、伝統を受け継ぎながら発展を続けるなかで、創立120周年を迎えます。



生活服飾科最後のファッションショー



国際チャレンジコース生徒による英語での学校紹介



#### 【参考資料】

新潟青陵高等学校創立百周年記念事業実行委員会『新潟青陵高等学校百年史』（第一印刷所、平成12（2000）年）ほか